



横浜市立一本松小学校

学校だより

2月号

令和5年1月31日
横浜市立一本松小学校
校長 高桑 透

「温故知新」のみち～古きをたずねて 新しきを知る～

副校長 杉山 嘉子

「温故知新のみち」・・・地域をまわっている際に、ふと目にとまった文字でした。座右の銘として使われることも多い「温故知新」。

「論語」に語源をもつというこの言葉の意味は、「先人が残した古い教えや過去にあった物事を研究して、新しい知識や見解を見付け出す」です。西区内に広がる「温故知新のみち」。これは平成26年度西区制70周年を記念してつくられた、歴史ある西区ならではの魅力あふれるスポットをつなぐみちです。そして、この「みち」は、一本松小学校の周囲にもあり、「温故知新スポット」の発見にはちょっとした喜びを感じました。

調べてみると、歴史ある西区の魅力を再発見できる3つの散策ルートは、「新旧市街地をつなぐ産業の温故知新のみち」「新旧東海道の温故知新のみち」「暮らしの温故知新のみち」ということが分かりました。一本松周辺の地域に広がる「温故知新のみち」は、「暮らしの温故知新のみち」。開港後、横浜の生活を支えた住宅地の歴史をたどるみちです。まちを歩きながら、古に学び、新たな学びにつながる一步を探すことは、今年度赴任してきた私にとって楽しみの一つとなりそうです。

さて、一本松小学校は、令和5年1月27日に創立112周年を迎えました。

先週の金曜日には、一本松計画委員会の高学年の子どもたちが中心となり、「開校記念式」を行いました。5・6年生がつくったケーキの土台とプレートに、各クラスで作成した素敵ならうそくに思いを込めて、一本松小学校の創立をお祝いしました。式の最後に終わりの言葉として、「明治、大正、昭和、平成、令和と5つの時代を越えた歴史のある一本松小学校。これからも先輩たちが積み重ねてきた伝統をつないでいきましょう。」6年生が1年生から5年生の後輩たちに向けて、心に響くメッセージを伝えてくれました。

112年という一本松小の歴史をつくり、つないでこられた先輩方、地域の皆様の思いを、さらに未来の一本松小へ。まもなく卒業を迎える6年生には、一本松小学校をつくる、そしてつやってきた一人として、地域の歴史にも思いをはせるとともに、過去の自分に学び、未来の新しい自分自身の発見につなげることで、自己の成長を実感し、生きる力にしていってくれることを期待します。残りわずかとなった一本松小学校の仲間との生活、日々の授業を通して、時には立ち止まりながら自己を振り返り、そこでの学びを、中学校につなげてもらいたいと思います。

今年度も残り2か月となりました。今月も、職員一丸となって日々の教育活動にあたります。引き続き、一本松小学校の教育活動へのご理解、ご協力よろしくお願いたします。



温故知新
スポット解説サイン

